



工業系高校計585校が加盟する「全国工業系高校長協会」(東京都)が5日発表した調査結果によると、県内の工業系高校から総合型選抜や学校推薦型選抜、指定校推薦などで国公立大に進学した生徒数は2024年度に53人で、5年連続の全国1位となった。同協会が都道府県別にデータを出し始めた14年度以降、本県からの進学者数は2度2位になった以外は毎年首位を維持している。人口が集中する都市圏を押しつけて静岡県が「無双」を続けている理由とは。

全国調査は高校から技術者育成を支援する態勢づくりを狙いに、同協会付属教育研究所が毎年実施している。24年度は科学技術高28人(全国2位)と浜松工業高が16人(同7位)、ほか浜松城北工業や沼津工業、吉原工業、島田工業、掛川工業の計5校で9人が合格した。同研究所は「これほど長い間首位でいることは注目に値する」と話す。

科学技術高(静岡市葵区)の校長で県工業高校長会長の務める大沢貢校長は「明確な要因を特定できる訳ではないが、本県は多くの学校で共通教科を学ぶ体制が整っていて大学受験に有利。『ものづくり県』を支

## 県内工業系高からの推薦・総合型選抜

# 国公立大への進学「全国一」

都道府県別国公立大学合格者(人)



える人材育成の場として、工業系高校を応援する土地柄も影響しているのでは」と分析する。

同校は例えば国語なら必須科目以外の古典や表現なども選択できる教科体制で、専門科目も加えた授業時間は県内屈指の多さという。生徒は毎日7時間目まで受け、放課後の補講や土曜日講座もある。学校は推薦や総合などを目指す生徒



校内の実習施設では、学科ごとにさまざまな実験や実習が行われている＝5月下旬、静岡市葵区の科学技術高

工業系高校から推薦・総合型選抜などで国公立大へ進学した生徒数が多かった都道府県は、2024年度の調査では静岡(53人)、徳島(47人)、新潟・秋田(それぞれ40人)の順で、地方の公立校で多い。都市圏は生徒数が多いものの私立高(普通科)人気の影響で進学者数は少ない。埼玉と千葉はそれぞれ1人だった。

## 上位は地方公立校

過去5年間のデータでは、静岡が最多だったのは23年度の68人。全国の学校別では徳島の科学技術高が35人、47人で毎年首位。静岡の科学技術高は28人、35人で、21年度には徳島科学技術高と並んで全国1位になった。浜松工業高は8人、16人で22年度から10位以内に入っている。2校以外にも10人、20人ほどが進学している。

「今は企業の求人が好調で、高卒での就職も魅力的。そんな中で大学を選ぶ生徒は、こういう研究をしたいと具体的なビジョンを持っている」と平井光裕副校長。「生徒の主体性に任せているため、日頃から全校体制をつくっている訳ではないが、希望者には全力で支援している」と話す。

両校とも1学年8、9クラスと県内でも最大規模で、教員数は豊富。異動先で進学支援の経験を実践しながら、オール静岡体制を構築してきたとみられる。科学技術高はブログの閲覧数が通算600万ビューを得るなど、各校で生徒獲得にも力を入れている。(教育文化部・大須賀伸江)